

五十鈴グループのワーレックス

EVトラック運用開始

「静かで快適、環境に優しくドライバー思い」。五十鈴グループ（CEO、鈴木勝氏）で各種鋼材の輸送を手掛けるワーレックス（社長・松本義典氏）は、業界に先駆け平ボディ仕様の中型EVトラックを導入した。まずは本社（栃木県小山市）に4ト車1台を採用し、近距離圏内を対象に運用を開始したが、エンジン音が無音に近いほど静かで加速時の振動もほとんど無く、運転中に感じる特有のストレスも軽微とのこと。

導入したのは三菱ふそうトラ

ック・バス製の「eCante r」で型式はZAB-FEC9K。軽量化するためフレーム部やアオリ、荷台フロアなどを鋼製からアルミに代替するなど独自カスタマイズも施し、最大積載量を3・1トとした。

昨年1月の納車以降、近距離

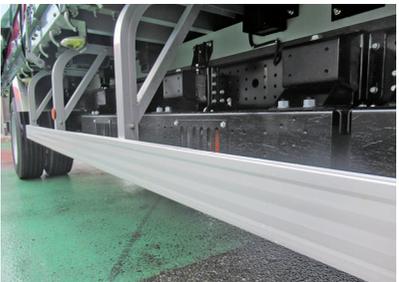
を中心に鋼材輸送を随時行って

いる。地球環境配慮を念頭においた脱炭素社会に向けた持続的な取り組み・活動の一環でEV（電気自動車）の採用・普及が乗用車が進んでいるが、トラックなど商用車についてはバッテリーや充電機器の開発のほかインフラ態勢の整備面といった諸課題もあり進ちょくは遅れている感がある。

ただ、五十鈴グループではSDGsを強力に推し進める中で



業界に先駆け導入した4トEVトラック



フレームをアルミ製に改良するなど軽量化も

SDGs推進、作業環境改善も

ロジスティクス部門を含む事業部門で環境配慮に取り組みしており、それに準拠する形でグループ中核企業のワーレックスではEVトラックの導入・運用を業界でいち早く実施した。

現状では「普通充電ではフル充電に丸1日かかる」ため、月に数度の運用にとどまることから、運行途中で充電を行うなどの実験を行い、稼働率を上げる活動を行っている。

利点は「従来のガソリン車に比べてさまざまな点で快適さが増す」とのこと。CO₂の排出（排ガス）が無いため真夏の酷暑シーズンのアイドリング中でもエンジン音を切らずに済むので車内でのエアコン使用が可能となり、ドライバーにとって作業環境改善の一助となる。EVトラックはまだ珍しいため納品先での評判も上々だ。

社用車も環境配慮

ワーレックスでは昨夏から本社（栃木県小山市）の社用車にもEV車を採用した。購入したのは「日産ARIYA（アリア）」。

同時期に五十鈴関東小山サービスセンターにも1台納車している。

